

訃報 (obituary) 前角博雄老師 (1931—1995)

前角博雄老師の突然の遷化は、曹洞禪宗のみならず、全仏教界並びに全宗教界にとって、誠に大なる損失である。師の「十の方向」に亘る教説は、多数の人々に触れ、同時に甚深なる慈愛と洞察力を伴って、師の徒弟を導いてこられたのである。われわれは前角慧鏡師と御家族と師の弟子の方々並びにホワイト・プラム・アサングに甚深なる哀悼の意を捧げるものである。

前角老師は、教次にわたり、曹洞宗宗務庁後援による「特別摂心伝道教師研修所」の主任講師を務められた。最近のものでは、去る

三月、グリーンガルチファーム (Green Gulch Farm) のグリーンドラゴンテンプル (青龍寺?) で開かれたのである。師はその研修会で「光明の伝達—規範と清規」のテーマのもとに、参加者を教導されたのである。師の指導の下に参加者たちは、わが宗の僧堂生活の基本典籍である「永平清規」と「瑩山清規」を實踐し発展させたのである。

前角老師は一九五六年にロスアンゼルスに赴任されて以来アメリカ合衆国において僧堂禪仏教の普及に尽力されたのである。師は、かの国において曹洞禪仏教の思想を普及させ

るにあたっては、注意深い教師であり、且つ慎重なる解説者であった。

解説は異文化間の理解の基本的伝達の手段の一つである。今日では、それは、かつてより更に重要なものなのである。われわれは、われわれの理解から何をしようとしているのかを、われわれ自身に問う場合、コンセンサスを思いつくことは難しいことに気づくのである。事実、相互に相反する二つの急を要する願望をもっているとき、一方では、われわれの願望は、すべての文化に含まれる普遍的人間の経験を認識することである。他方では、われわれの願望は異なる諸文化の中の具体的に表現された人間の経験の相違を理解することなのである。換言すればわれわれは他の文化を完全に知られたものとして見ることを欲しないのである。むしろ、他の文化を新しい

思想や価値の異質の世界に入る個々の意識を作るであろう異国趣味（エキゾティシズム exoticism）として保持することを望むのである。いかなる個人も曹洞禅宗の微妙さのすべてを伝えることができるとは思わないのだが、しかし前角老師の場合は、師のユニークなアプローチ、師の解釈のスタイルと方法、そして師の法の継承者への教説のスタイルと方法は年とともに完璧に発展し洗練されて、それは師をして「東方より西方への仏道」の伝達のための重要な橋となしたのである。

師を失ったことは誠に痛恨の極みである。しかし師とその教えは決して忘れられることはないであろう。師の教説は人々の生活を、豊かにし続けるだろう。老師は曹洞禅宗に対して測りえない貢献をされたのである。

（ゼンクォーターリーより転載）